

本指導案は、「2018年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業

美術科学習指導案

1. 題材名 **実験「ホワイト ディスチャージ」**
2. 題材作品 金氏徹平 《White Discharge (建物のように積みあげたもの #3)》
2009年(平成21年)
プラスチック製品、木製品、鉄製品、顔料、ポリエステル樹脂
高さ 282.0× 幅 109.0× 奥行 109.0cm
横浜美術館蔵
3. 実施学年 第1学年
4. 学習指導要領との関連：B鑑賞(1)ア、イ 【H29学習指導要領：B鑑賞(1)ア(ア)】

5. 本題材について

本題材では、日常の見慣れたものたちが積み上げられ、その上から、白い樹脂がかけられている作品を取り上げる。作者が実験的に行っていた、色々なものをテーブルに置いて片栗粉をかけるという活動を追体験してみることで、作者の制作の意図や考えを探る。さらに作品の鑑賞を通して、様々な事象に対して柔軟な視点を持ち、意味や価値をつくりだしながら、見たり感じたりする力と豊かな生活を創造しようとする心を育てる。

6. 題材目標

現代美術のよさや美しさを感じる活動を通して、ものの見方や感じ方を広げ、日常生活の中で、豊かな感性で様々な事象を感じ取る心を育てる。

7. 題材の評価規準(現・学習指導要領に基づく)

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
○楽しく現代美術作品の鑑賞をする活動に取り組み、表現の工夫を味わい、心豊かな生活を創造しようとしている。	○現代美術作品の造形的なよさや美しさを感じとり作者の心情や表現の意図と工夫、表現行為などについて考えるなどして見方や感じ方を広げている。

8. 準備

【教師】鑑賞プリント

白い粉、ボウル(粉を入れる容器)、粉をすくうもの(厚紙をカットしたものなど)
スパッタリング用金網、色画用紙

身の回りにあるいろいろなもの(並べたり積んだりするものたち=絵具、筆、はさみ、ホッチキス、セロテープ、クリップ、ボンド、ペンチ、木端、たわし等)

【生徒】筆記用具

9. 授業展開 (全 1 時間)

1	生徒の活動	教師の指導・支援
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・美術室に入り、大きな作品写真を目にする。 ・作品の大きさや雰囲気を感じとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術室に作品の写真を原寸大にしたコピーを貼っておき、「なんだろう?」という気持ちを高めるようにする。 ・写真で作品を紹介する。サイズなどの雰囲気が伝わる説明だけをする。「なんだろう?」という感覚で作品と出会う感じにする。
展開 (1) 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を覆っている白い物質は何か推測する。 ・白いものの中には何があるか、観察する。 ・プリントに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部分が大きく写っている写真を見ながら、作品をよく観察するようにする。 ・上から覆っている白い物質は何だろう?と問いかけて白いものの質感などをよく観察するようにする。 ・白いもので覆われていてよく見えないが、下に見え隠れしているものには何があるか、よく観察して見覚えのある形などを見つけて推測するようにする。 ・詳細な解説はせずに、「なんだろう?これは」、という感じを残すようにする。
展開 (2) 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の説明を聞く。 ・実験に必要なものを班で 1 セット準備。 ・色画用紙を机に敷き、上に、いろいろなものを並べたり積んだりする。 ・並べたものに、白い粉を金網を通して、少しずつ振りかけて、だんだんに白く覆われていく様子をながめる。 ・全体が白い景色になったら粉をかけるのを終了する。 ・白く覆われた「ものたち」を観察する。白い粉をかける前とかけた後で、「ものたち」はどのように変化したか、どのように印象が変わったか、考える。 ・プリントに記入する。 ・白い粉をかけたことによって、ものの見え方や印象はどのように変化したか、班で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものを並べて、白い粉をかける、という実験を通して、作者の制作意図を探るようにする。 ・実験の手順を説明する。 ・実験に使うものを準備しておき、班で 1 セット取りに来るように指示する。 ・全部の班が並べ終えてから、粉を配布し、ゆっくりと静かな気持ちで粉をかけることに集中できるようにする。 ・全部の班が全体的に白い景色に変わったら、一斉に粉をかけるのを終了するように声をかける。 ・白く覆われた「ものたち」をゆっくりながめ、ものの見え方や印象が、どう変化したか考えるように伝える。 ・ものの見え方や印象について、感じたことを、班で話し合い、発表してもらう。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・作品をあらためてじっくり鑑賞する。 ・実験を通して気づいたこと、友達の意見から気づいたこと、作品で工夫されていると感じたこと、などをメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品写真をあらためてゆっくりと紹介する。作者が作品を制作している写真も紹介する。 ・実験を通して気づいたこと、作品に対する感じ方の変化などを、プリントに記入してもらう。 ・この作品は横浜美術館のコレクション作品で、美術館で鑑賞できることを伝える。

※展開 1 と展開 2 は、順番を入れ替えて行うことも考えられる。

10. 指導案作成者からのメッセージ

金氏徹平《White Discharge（建物のように積みあげたもの #3）》は、日常の見慣れた物質たちが積み上げられ、その上から、白い樹脂がかけられている作品である。日常の見慣れたものたちが、白い樹脂によって、「何かよくわからないもの」に変化してゆく、そんな「何かよくわからないもの」の魅力は変化してゆく過程にあるのではないかと考え、金氏徹平が行っていた片栗粉の粉をかける、という実験を追体験してみる。個々の物質は、それぞれ特性や主張のあるものたちであるが、白く降り積もる粉によって、だんだん一つの白いかたまりに変化してゆく、個々の物質はだんだんに「何かよくわからないもの」になってゆく。そんな追体験を通して作品の魅力を探って頂きたい。

11. 参考文献

「金氏徹平：溶け出す都市、空白の森」展カタログ（横浜美術館、2009年）

（指導案作成：横浜市立中学校教員 吉綾子、亀田良子）

■作品・作家について

金氏 徹平 [かねうじ てっぺい、1978年生まれ]
《White Discharge (建物のようにつみあげたもの #3)》

2009年(平成21年)

プラスチック製品、木製品、鉄製品、顔料、ポリエステル樹脂

高さ 282.0×幅 109.0×奥行 109.0cm

横浜美術館蔵

金氏徹平は、京都市立芸術大学大学院で彫刻を専攻しましたが、彫刻家がよく行うように、木や石、粘土などの素材から形態やイメージを造形するという方法ではなく、プラスチック製品、配管パイプなどの、商品化され、日常の生活空間にあるモノを素材として、積み上げる、つなげる、といったシンプルな行為を繰り返すことで制作を続けています。

本作《White Discharge (建物のようにつみあげたもの #3)》は、2009年に横浜美術館で開催した企画展「金氏徹平：溶け出す都市、空白の森」のために美術館内で制作された作品です。様々な日用品が3m近くの高さまで塔のように積み上げられ、その上から白い樹脂が全体に注ぎかけられています。近づいてよく見ると、白い樹脂の下に日頃見慣れたアニメのキャラクター人形や幼児の玩具などが見え隠れしていることに気づきます。

日常にほんの少し手を加えることでモノに付加された用途や意味から私たちの固定化された意識を解き放ち、既成の観念に縛られない自由な視点の大切さを私たちに気付かせてくれます。例えば、雪の日の朝、日頃見慣れて何の注意も払わなくなっていた日常の風景を改めて新鮮な目で見つめ直す、そんな経験を思い起こさせます。

(横浜美術館 教育普及グループ)